

付注2-1 税制シミュレーションモデルシステム

第2章の分析に用いた本システムは、国民生活基礎調査の個票データから、課税前の所得と世帯属性を読み込み、その家計の税額と社会保険料を算定するシステムである。システムの構成を下図に示す。各処理の主な機能は以下のとおりである。

(1) ファイル読み込みとデータ変換処理

個票データを読み込み、(3)の税額・社会保険料計算処理にインプット可能な形式にデータ加工・データ変換処理を行う。

ここでの処理は、個票データごとに処理する。

(2) 税・社会保険関連表作成処理

各年次の税率や控除額、社会保険料率などの関連表を作成又は修正処理する。

(3) 税額・社会保険料計算処理

(1)の処理結果である家計の課税前の所得と家計の属性(性別、年齢、配偶者・扶養親族の有無など)から家計に対する課税額と社会保険料を、(2)で作成した税・社会保険関連表を参照して、一定の仮定のもと、実際の課税額・社会保険料を計算するのと同様の方法で算定する。なお、医療保険及び年金保険については、賞与が給与月額額の3か月分と仮定し、課税前の所得を1.3で除したものを報酬額としてある。

(4) 結果データ編集処理

(3)の税額・社会保険料計算処理の結果データを集計表イメージのデータファイルに編集し出力する。

※(1)において、個票データの代わりに、家計の課税前の所得と家計の属性(性別、年齢、配偶者・扶養親族の有無など)を前提条件として設定し、読み込ませることにより、個票データの場合と同様に家計に対する課税額と社会保険料を算定することもできる。

